

「春の生物はどのような様子をしているのだろうか」

～自らの安全や生物への影響を考慮した観察方法を構想できる～

野鳥を観察する際に、安全に留意していなかったり、野鳥の生態に影響を及ぼしたりするような解答が見られました。そこで、本アイデア例では、生物の観察方法を構想し、その後、その構想した方法について根拠を基にして議論するなど、話し合いを通して、観察方法が安全への配慮と生物への影響を考慮したものになっているか、その妥当性を検討する授業展開を紹介します。

課題の見られた問題の概要と結果

1 生命に関する問題 (ひなの観察)

1(1) 正答率 **82.1%** 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ

学習指導要領における区分・内容

[第4学年]

B 生命・地球(2) ア

授業アイデア例

単元名

第4学年「季節と生物(春)」[全5時間] (本時2/5)

■ 第1次 (4時間) ■

< 問題解決の過程例 >

1 (体験活動Ⅰ) 事象への働きかけ (1/5)

春の校庭に出て、写真の冬の校庭の様子と比べながら違いを見いだす。

2 (言語活動Ⅰ) 問題、予想や仮説、 観察・実験計画 (2/5)

季節による生物の様子を予想し、観察計画を話し合う。

3 (体験活動Ⅱ) 観察・実験 (3・4/5)

春の生物の様子を観察する。

4 (言語活動Ⅱ) 結果の整理、考察、 結論 (5/5)

春の生物の様子をまとめる。

働きかけ 暖かくなると、生物の様子が変わってきたことを話し合う。

問題 春の生物はどのような様子をしているのだろうか。

予想 春の生物の様子は、生物によって何か差異点や共通点があるのか、また他の季節との様子の違いがあるのかについて予想する。

観察計画

ポイント

児童が観察方法を構想する場面を設定しましょう。



教師

どんな生物を、どのような方法で観察するとよいでしょうか。



りかこ

わたしは春になって見られる野鳥のひなを、鳥かごに入れて育てながら観察したいです。



かつや

サクラの花や葉などの木の様子を春・夏・秋・冬と続けて記録したいです。毎回木の下の同じ場所から観察しようと思います。



ポイント

話し合いを通じて、自らの安全や生物への影響を考慮した観察方法が構想できるようにしましょう。



教師

考えた観察方法は安全で生物の成長や子育ての邪魔をしていないか、グループで話し合しましょう。

ひな鳥をとってくると、親鳥からはなすことになってしまうね。子育てや成長のじゃまをしているので、鳥かごに入れるのはよくないと思うよ。

そしたら、ビデオカメラを鳥の巣の近くに置いて、子育ての様子を記録したら、安全に観察できるよ。



木の下という同じ場所で続けて観察するのは、季節による様子のちがいが分かるのでいい方法だね。写真で記録すると分かりやすいと思うな。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 生物の観察方法を構想する際、安全かつ、生物への影響を考慮できているかを検討できるようにします
春の校庭に出て、写真の冬の校庭の様子との違いを見だし、見いだしたことを基にして生物の季節による様子の違いに問題意識をもち、予想や仮説を立てた上で、観察方法について考えることができるようにします。また、構想した観察方法が安全への配慮や生物への影響を考えられた方法か、話し合いによってその妥当性を検討する学習場面を設定することが大切です。